石川県立美術館だより

平成20年3月1日発行　第293号

コレクション展示

古九谷と再興九谷

会場：石川県立歴史博物館 第2特別展示室

3月1日（土）～3月23日（日）　3月26日（水）～3月31日（月）

色絵象人物図角皿　吉田屋窯

象にまたがり、象を操る老人。吉田屋窯作品のなかでも、異国情緒を漂わせた角皿である。象を意匠とした作品は何点か知られている。いずれも中国・明時代後期の版本『方氏墨譜』、『程氏墨苑』に掲載されている「九貢」図を参考にして描いたものといわれ、吉田屋窯を開いた四代豊田伝右衛門の豊かな教養と洒脱な文人趣味がうかがえる作品である。

さて、石川県を代表する焼き物「九谷焼」、一口に九谷焼といっても、江戸時代前期の「古九谷」から江戸時代後期に入って古九谷再興を目的とした若杉窯、吉田屋窯などの「再興九谷」、明治維新後、殖産興業・貿易品として発展した明治の九谷、そして今日、小松・寺井・金沢など加賀地方各地で生産される現代の九谷と多種多様な展開をみせています。

今回は所蔵品の中から九谷焼の源流ともいうべき古九谷と再興九谷の優品、古九谷では「青手老松図平鉢」「色絵壺割花鳥図平鉢」「青手葡萄図平鉢」など九点を、再興九谷では春日山窯「色絵鹿図呉須赤絵写」、若杉窯「染付花鳥図芙蓉手平鉢」、吉田屋窯「色絵象人物図角皿」、宮本窯「赤絵弾琴図鉢」、小野窯「色絵楼閣山水図蓋物」、粟生屋窯「色絵自動噴水器」、松山窯「色絵桐鳳凰文平鉢」、それに永楽和全作「色絵金銀彩有職文二段重」、九谷庄三作「色絵金彩八仙人花鳥図大花瓶」など十九点、合わせて二十八点展示いたします。

※尚、入館の際には歴史博物館の入場料が必要となります。

平成十九年度

展覧会回顧

今年度の当館は、九月三日からリニューアル工事のため約一カ年間の休館に入りましたが、九月二日までは、一階の企画展示室や二階のコレクション展示室で数多くの展覧会が開催されました。

企画展示室では、当館主催の「生誕百年 **高光一也の画業**－モダンの煌めき－」や、**「世界遺産ナスカ展** 地上絵の創造者たち」、「ヴィクトリア アンド アルバート美術館所蔵 初公開**浮世絵名品展**」などの報道機関主催の企画展、また各種美術団体の公募展や巡回展というように、十一回を数えました。コレクション展示室で行った特別陳列や特集は十六回となり、一階と二階を合計すると二十七回という多くを数えます。それらの中からいくつかの展覧会を振り返ってみたいと思います。

「生誕百年 **高光一也の画業**－モダンの煌めき－」は、独学で絵を描き始めた石川県立工業学校時代、中村研一に師事して帝展・文展に出品を始めた戦前、従軍画家として徴用された戦時中、室内の人物と裸婦が徐々に大胆に変化していく戦後すぐ、三十年代の抽象画全盛の時代には、その潮流に応ずるように写実から遠ざかり、四十年代に入って再び女性像を華麗に描き出し、五十年代には白を基調色として日本画の絵肌を思わせるような美人画を描くなど、大正末から昭和末まで六十年に及ぶ高光一也の画業の展開を“時代に挑み続けた画家”としての視点から構成したものでした。師の中村研一、同世代の小磯良平、宮本三郎、金沢美術工芸専門学校で共に後進の指導にあたった小絲源太郎の作品を一堂に展示することにより、高光の画業の展開、時代への対応等を鮮明にすることができたと思います。

同展に関連して、高光の金沢美術工芸大学在籍時に学んだ画家と学外で師事した画家二十八名の作品をエコール・ド・金沢（金沢派）と呼んで特集展示しました。また、高光が本県在住洋画家で初の芸術院会員に選任されたことに因み、石川県関係者を含む芸術院会員の作品による「美の至宝 芸術院会員名品展」も開催し、両展とも好評をいただきました。

「世界遺産ナスカ展 地上絵の創造者たち」は、南米ペルーの南部海岸地帯に紀元前百年から紀元七百年頃まで栄え、砂漠地帯に描かれた地上絵で有名なナスカ文化を紹介する展示でした。ミイラ、彩色土器、織物などの多彩な考古遺物により、ナスカ文化の複雑な図像世界と高い技術をご覧いただくとともに、地上絵とそれが刻印された砂漠の大地を、最先端CGにより再現し、体感型バーチャルシアターで上映し、ナスカ人の想像力と世界観に触れていただきました。会期中お子様をはじめ多数の入場者でにぎわいました。

「ヴィクトリア アンド アルバート美術館所蔵 初公開**浮世絵名品展**」は、同館浮世絵コレクションの国内初公開展でした。鈴木春信・喜多川歌麿・歌川豊国・葛飾北斎・歌川広重などの美人画・役者絵・風景画。残されている作品が少なく貴重な団扇絵。狂歌絵本（狂歌とともに絵が添えられたもの）を中心とする版本。肉筆画と版下・画稿など、他の美術館のコレクションと違う特徴を持つバラエティーに富む版画コレクションでした。近年当館に寄附された故久世重勝氏の浮世絵コレクションは、鈴木春信や鳥居派、勝川派などの初期の浮世絵から、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川豊国、歌川広重などの有名な浮世絵師の作品二七九六枚と、大正・昭和期の近代版画百十枚を数え、美人画、風俗画、風景画、役者絵、相撲絵、物語絵など浮世絵のあらゆる分野を含む、膨大かつ貴重な個人コレクションであることを改めて再認識いたしました。

「特別公開 重要文化財百工比照」は、十四年ぶりの大量展示でしたが、こんなものまで“すごい”などの感想が聞かれました。

「前田家の名宝」は、歌合や御宸翰を主に、絵画、工芸を合わせて展示し、加賀藩の豊かな文化を再認識していただきました。

「白山を描く－石川・福井の画家たち－」は、当初、岐阜県を含む三県の画家たちを取り上げる予定で、準備を進めましたが、両県とも写真家で白山を取り上げる人は多数いましたが、画家は少なく、石川（十五名）・福井（二名）の画家による構成となりました。白山の自然と風物を楽しんでいただけたことと思います。

参加者募集！

第6回 美術館バスツアー

「能登に栄えた古代の文化、中世の美」

期　　日：平成20年4月27日（日）
参 加 費：5,800円（会員外6,000円）
募集定員：40名（対象は原則として成人）

【見学予定地】

◆石川県七尾美術館

当館館長　嶋崎　丞の解説で鑑賞する「長谷川等伯展」。今年は、等伯の後継者として「清雅父にまさる」といわれながらも夭逝した、七尾生まれの長男・久蔵の生誕440年にあたります。久蔵の代表作・国宝「桜図」など、館長がツアー参加者に特別解説します。

◆能登町真脇遺跡縄文館

真脇遺跡は、縄文時代の前期初頭（約6,000年前）から4,000年間もの長きに渡り繁栄を続けた長期定住型集落遺跡。昭和５７・５８年の調査により出土した多彩な出土品の一部を保存展示しています。今回は縄文館館長から遺跡、埋蔵文化財について、とっておきの話をして貰います。

◆珠洲焼資料館

中世古陶を代表するとまでいわれる「珠洲焼」。素朴で温かみある佇まいは上品さに満ち、見る物の心を掴みます。珠洲古陶100点を展示しおり、その移り変わりや広く流通した様子、当時の信仰・生活との関わりなどについて解説して貰います。

◆能登中居鋳物館

全国で唯一の鋳物専門の資料館。和風数寄屋造りの館内で中世から大正末期灯籠や喚鐘、茶釜などの貴重な鋳物史料及び鋳物師に関係する古文書などを解説して貰います。

【申込み方法】

◇往復はがきに下記の事項をご記入し、ご応募下さい。応募多数の場合は抽選となります。

①往診はがき裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、住所・氏名・年齢・電話番号・会員番号（友の会会員のみ）をお書き下さい。

②返信はがきの表面には確実にお手元に届くように返信先（住所・氏名）をはっきりお書き下さい。

③返信はがきの裏面には、何も書かないで下さい。

◇応募先

〒920-0963 金沢市出羽町２－１
石川県立美術館バスツアー係

◇応募締切り　平成20年4月1日（火）必着

※応募者１名につき、往復はがき１通でご応募下さい。お一人で何通も出されたものや、連名のもの、記載事項が不備なものなどは無効となりますのでご注意下さい。

3月の行事案内

■県立生涯学習センター（3階35号室）金沢市広坂2丁目1番1号 石川県広坂庁舎1号館
■午後1時30分より ※入場無料

月　日	行　事	内　　容	
3月　2日（日）	美術講座	前田家ゆかりの寺院と利家の肖像画	（村上 尚子 学芸主任）
3月　9日（日）	美術講座	浮き彫りについて	（北澤　寛 学芸主査）
3月16日（日）	美術講座	美術館を楽しむ　石川県立美術館	（谷口　出 普及課長）
3月23日（日）	美術講座	やきものの魅力①	（南　俊英 学芸第1課長）

所蔵品紹介 186

色絵楼閣山水図蓋物（いろえろうかくさんすいずふたもの） 小野窯

江戸19世紀
蓋径23.1　底径22.1　高11.5cm

円筒形の蓋物で、小野窯の特色である赤絵細描で装飾が施されています。蓋の表は中央に八角形にかたどった窓が切られ、そこに遠景として雲にそびえる山、近景に木々と建物の、いわゆる楼閣山水図が、きわめて細い線描で描きあげられています。この窓に描かれる山水図は赤絵だけでなく、赤・黄・紺青・緑や黄緑などの絵具も使われており、鮮やかに仕上がっています。

胴の部分には、四つの格狭間が設けられています。正面には滝を背にした人物が、背面には牛と人物が描かれ、両側面には赤絵細描の玉取獅子がそれぞれ描かれています。これら四つの枠を赤玉文で繋いでいますが、そこには「福」と「寿」の文字が交互に記されており、赤玉の周囲には紺青で描かれた唐草が取り巻いています。

蓋は縁の部分が太い黄色の帯状になっており、身の下方の出っ張った部分は緑色の絵具で同じく太く彩色しています。蓋裏の中央に二重角で「小野」の銘が書かれており、小野窯を代表する優品の一つで、繊細優美な趣が伝わる作品です。

ミュージアムレポート

学校出前講座　どこでもミュージアム
イン 和気小学校、小松養護学校

教育普及事業の一環として「どこでもミュージアム」と題し、学校へ当館の所蔵品を持って行き作品鑑賞を行う「学校出前講座」。１月１５日に能美市立和気小学校、１月２３日に県立小松養護学校を訪問し、作品鑑賞授業を行ってきました。

和気小学校では全校生徒を低・中・高学年に分け、各１時間ずつ作品鑑賞を行いました。学年をまたがっての鑑賞授業となると、お互い感想を述べにくいのではないかと心配したのですが、「絵の奥の扉から誰か出てきそう。」「ほんもののガラス玉のようなきれいな色。どうして描いてあるの。」「どこか遠くを見ているよう。遠くにトンボが飛んでいるのかも。」など、合同授業でも活発に意見や感想を述べてもらえました。

小松養護学校では体育館を展示室にし、高等部の生徒と午前中作品鑑賞を行いました。館の展示室内では床にすわってゆっくり鑑賞することは難しいのですが、学校では個人のペースでゆっくり鑑賞することが出来ます。たくさんの先生方も一緒に参加されていたのですが、「生徒たちも真剣に学芸員のお話を聞いたり、鑑賞していたのは良かった。

本物を見る機会がなかなかもてない中、本校でこのような授業ができたことはとても良いと思います。貴重な経験となりました。ありがとうございました。」という感謝の言葉をいただきました。

このように、休館中は多くの学校にお邪魔したいと思いますので、希望の学校がありましたら普及課までご連絡ください。私たちと学校でたくさんの美術作品に親しみましょう。

石川県立美術館だより 第293号
2008年3月1日発行
〒920-0963 金沢市出羽町2番1号　Tel:076(231)7580　Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp